

	課題分析	授業改善策
国語	書くことや話すことに苦手意識のある生徒が多い。自分の考えや意見を言葉や文章で適切に表現するための能力やコミュニケーション能力を高めていくことが求められる。	授業内での対話を積極的に行い、表現力を高めていく。文章の書き方や構成の力を養うため、文章による表現やスピーチ原稿等を作成する機会を増やす。必要な情報に注目して聞くことができるよう、発問の仕方やグループ活動を工夫する。
社会	全体として意欲的に取り組んでいるが、理解や資料活用に個人差が見られる。課題についても、主体的に取り組むことができる生徒とできない生徒がいる。	授業の中で、その日の学習を振り返る時間を必ず設定し、学習内容の定着を図るようにする。課題については、日々の学習と休業中で難易度を変えることで、学習効果を高めていけるようにする。
数学	全体的には意欲的に取り組んでいるが、知識・技能の観点における定着度に個人差が見られる。思考・判断・表現の観点においても粘り強く考えていく姿勢に課題を感じる。	生徒自身が定着度を確認することができるよう内容の振り返り、節ごとに小テスト、章ごとに単元テストを行う。また、授業内での学習やレポート課題などを通して、思考力・判断力・表現力を育成していく。
理科	自然の事象に関する興味関心が高く授業への意欲が見られる。基本的な知識や実験や観察を行う技能、結果について考察する力について個人差が大きい。知識を系統的につなげていくことが難しい生徒も見られる	基本的な知識技能を身につけるため、ワークやプリント、小テスト等で繰り返し復習を行う。実験の意図や考察のポイントなどを伝え、思考力・判断力・表現力の育成を図る。また、実験でのグループ活動や対話的学習を取り入れ、各自が学習意識をもてるようにする。
音楽	全体的に意欲的に取り組んでいるが、音楽に関する知識の個人差がある。鑑賞の授業では、音楽の特徴と感じたこととの関わりを結びつけることに課題がある。	音楽の基本的な知識について、何度も確認することで定着を図る。音楽を形づくっている要素を厳選し、音楽を表す言葉を例示しながら、それらの関わりについて考えられるようにする。
美術	全体として意欲的に取り組んでいるが、アイデア出しの際に発想が偏ってしまうことや、造型的な視点をもって作品を鑑賞していくことに関して課題が見られる。	作品制作の中で、生徒が意図的に形や色彩、材料などを活用するとともに、美術史の授業などを工夫し、知識面も習得できるように指導していく。
保健体育	全体的には意欲的に授業に取り組んでいる。体力や技術に個人差が大きい。指示されたことは取り組むことはできるが、自らの課題を分析、解決する力が不足している。	ワークシート等から生徒の実態を把握し、これを踏まえて毎時間の目標や各単元のねらいを設定する。必要に応じてグループ学習を用いて、課題解決学習を展開し、教材を工夫し指導していく。
技術・家庭	ものをいろいろな方向から見たり考えたりする力や工夫する力が十分ではないため、実際に作図や設計をさせると、個人差が大きい。ものを作る体験が乏しく、基本的な道具や工具、機械を実際に使ったことがないので、経験や体験が不足している生徒が多い。（技術） 発問に対して積極的に応答し、意欲的に授業に取り組んでいる。栄養素について理解は	ワークシートなどを利用し、繰り返しの学習や復習を行う。導入題材で基本的な製作体験をさせ、その後本題材を行い、より実践的・体験的な製作と実習を多く取り入れる。（技術） 自らの食生活を振り返る授業や、ワークシートを使って6つの基礎食品群についての知識の定着を図るように

	しているが、食品と関連付けて考えることが難しい生徒が多い。(家庭)	指導していく。(家庭)
外国語	既に小学校の外国語活動の段階で苦手意識のある生徒が一定数おり、地道な取り組みで自信をつけさせることが必要である。一方で、大きな声で音読できる生徒が多い。	基礎学力を定着させるために、ワークブックや繰り返し語順トレーニングなどの副教材に計画的に取り組ませる。また単元テストの他に、授業中に帯活動として単語テストと聞き取りテストを実施していく。